



紀尾井ホール で会いましょう

vol. 2

新日鉄創立20周年記念事業として95年春にオープンした紀尾井ホールは、<発掘・創造・育成・交流の場>をテーマに、演奏家と聴衆を結ぶ音楽専用ホール。「紀尾井ホールで会いましょう」シリーズでは、欧州伝統のシューボックス形式の“クラシック専用ホール”と、能舞台風にこしらえた舞台の“邦楽専用小ホール”でお届けしている名演奏をご紹介します。



江戸っ子の風流や粋を ホールで再現

日本の伝統音楽シリーズ

(特別公演) 邦楽で綴る江戸の四季

江戸開府400年記念公演として、江戸の風流・粋を邦楽とおはなしで、江戸の図絵をスライドで紹介する公演。箏曲・祭囃子・端唄に伝わる四季折々の情景を表現した作品の演奏や、博学で邦楽への造詣も深い永六輔氏をゲストに迎え、絶妙なしゃれを交えた後藤美代子さんとの対談で、お客様には紀尾井小ホールでの邦楽公演を十分お楽しみいただきました。

公演の概要

2003年10月20日 紀尾井小ホール
箏曲「七福神」 江戸囃子「祭組曲」 端唄「恋の彩り」
創作邦楽「風流江戸の四季」(箏曲・お囃子・端唄の構成)
主催：(財)新日鉄文化財団
千代田区江戸開府四百年記念支援事業

紀尾井シンフォニエッタ東京(KST) メンバー紹介

原田 幸一郎さん(ヴァイオリン)

今まで日本の音楽界の中でも恵まれた環境でやってきた「紀尾井シンフォニエッタ東京」が、新しい体制でスタートを切ることになりました。新体制ではいよいよ世間の荒波の中に揉まれることにもなります。それでも専用のホールを持ち、しかもそこでリハーサルができるという、日本の中で最も恵まれたオーケストラであることに変わりはありません。



この先、紀尾井ホールの他にも活動の場を広げていくわけですから、今まで以上に聴衆にとって魅力のある企画、プロフェッショナルな事務局、そして何よりも世界のオーケストラと比較しても遜色のない実力を持ったオーケストラに成長していかなければいけないと思っています。

プロフィール

1945年生まれ。桐朋学園、ジュリアード音楽院で学ぶ。69年にニューヨークで東京カルテットを結成、12年間第1ヴァイオリンを務めた。83年に帰国。室内楽の第一人者、指揮者、また教育者として活躍する一方、審査員として海外のコンクールに招かれている。現在、桐朋学園大学音楽学部学部長。

今年、発足から10年目を迎える紀尾井シンフォニエッタ東京は、2002年NPO法人格を取得して独立。メンバーが積極的に運営に参加する自主運営

豊嶋 泰嗣さん(ヴァイオリン)

ますます厳しくなる音楽事情の中で、「紀尾井シンフォニエッタ東京」も次のステージへと展開します。いい音楽を作り上げていくための環境をどうやって作っていくか、財政面やプログラム、出演者構想に至るまで我々演奏家も積極的に考えなければならない時期に入ってきたのだと思います。今後は、メンバーたちと自由に個性をぶつけお互いに刺激を与え合いながら、「これぞKSTサウンド！」と感じていただける音楽作り、また室内オーケストラならではの聴き応えのあるプログラムをお届けできるはず。ホールで十分に練習を行い、本番に臨むという恵まれた環境を支えに幅広く活躍していきたいと思っています。



プロフィール

桐朋学園在学中よりヴァイオリン、ヴィオラ奏者として活躍。85年ハレー・ストリング・カルテットを結成。数多くの室内楽プロジェクトを手がけ、ソリストとしても意欲的に活動している。新日本フィルハーモニー交響楽団と九州交響楽団のソロ・コンサートマスターを兼任するという異例の就任で注目を集めた。



マリオ・ブルネロ氏

世界的チェリスト、マリオ・ブルネロとの感動の再会

紀尾井シンフォニエッタ東京 第42回定期演奏会

リュートのための古風な舞曲とアリア 第1組曲 他

2001年の初共演で感動的な出会いを生んだマリオ・ブルネロ、待望の再登場となりました。ブルネロ自身が「わが家にいるようにリラックスして音楽を楽しめた」と言うように、相思相愛の思いが聴衆にも伝わり、拍手が鳴り止みませんでした。専門家の間でも絶賛され、ある音楽雑誌の演奏会評「今月の一番」では2名の評論家から選ばれました。

公演の概要

2003年12月5日・6日 紀尾井ホール
指揮/チェロ：マリオ・ブルネロ
レスピーギ：リュートのための古風な舞曲とアリア 第1組曲
レスピーギ：アダージョと変奏
ソリマ：Violoncelles, Vibrez!
フォーレ：エレジー op.24
メンデルスゾーン：交響曲 第4番 イ長調 op.90「イタリア」
主催：紀尾井シンフォニエッタ東京
共催：(財)新日鉄文化財団

オーケストラとして、世界のトップクラスを目指し、新たなスタートを切っています。KSTの中核となるリーダー3名にさらなる飛躍を目指す意気込みを伺いました。

澤 和樹さん(ヴァイオリン)

紀尾井シンフォニエッタ東京が生まれ変わります。誕生以来、大事に大事に育てられてきましたが、新世界に向け乗り出していきます。これまで尾高さんや、マイク・ジョージ、そして事務局やスタッフの敷いてくれたレールを、ただひたすら一生懸命走ってきましたが、これからはプログラミングを自分達の手で築き上げていく形になります。考えてみれば、いまやウィーンやベルリン、ロンドンなどの名門オーケストラですら、演奏者は演奏にだけ専念していれば良いという状況ではありません。厳しい現実もあるでしょうが、今まで私自身を含め、メンバーに欠けていた「自分のオーケストラ」という意識がこの機会に高まり、KSTが本当の意味で、その存在感を示すチャンスでもあると思っています。



プロフィール

東儀祐二、吉永清子、鷲見三郎、兎束龍夫の各氏に師事。1973年東京芸術大学入学、海野義雄氏に師事。79年同大学大学院修了。77年ロン=ティボー、ヴェニエアフスキ、ミュンヘンなどの国際コンクールに入賞。SAWA QUARTET、東京弦楽合奏団主宰。現在、東京芸術大学助教授、英国王立音楽院名誉会員。

楽屋から

感動の橋渡しを目指して

紀尾井シンフォニエッタ東京
企画・制作マネージャー
森 奈都子さん



わがホールのレジデント・オーケストラ、「紀尾井シンフォニエッタ東京」の企画・制作を担当しています。指揮者とオーケストラとの相性やプログラム構成、オーケストラという芸術家集団の各演奏家の意見など、いろいろな要素を考慮しながら演奏会を創り上げていきます。満席の盛況も嬉しいものですが、たっただおひとりでも、その方の人生が変わるような大きな感動を差し上げられるような公演を提供できたとき、私も感動を共にして、この仕事の一番のやりがいを感じるのです。

お問い合わせ先：紀尾井ホールチケット・センター
TEL 03-3237-0061 10:00~17:00(日祝休)
URL: <http://www.kioi-hall.or.jp>